

観光問題

問 観光局の場所変更は

答 すぐにも移りたい



太田 修議員

【観光施策について】

問 局の社員数の推移と財源確保策は。

村長 18年度728会員、22年度601会員で、127会員が減っています。財源の割合は、村の負担金60%、会員分担金30%、事業収入10%で、村から60〜70%ほどの補助を受けないと運営が難しいのが実情です。

問 行政からの派遣職員の位置付と次長増員の理由は。

村長 行政の特別職や当時の観光課長が局長を兼務していましたが、実務実態

はほとんどなかった。で、局の果たす役割の調査分析を長野経済研究所に依頼し、その報告により理事会で検討のうえ、局長の公募と次長2名の3名体制で、事業執行責任者とした。

派遣職員は、観光実務の難しさを体験し、民間感覚を養い、それを行政実務に生かすことを目的としたものです。



白马駅前 デスティネーション・キャンペーンの横断幕 7月21日

問

局長給与の変更とその理由は。

村長 局長公募の際に年収400万円の提示で、仕事の結果を出せばその時に適正な評価をする思いでした。金銭的評価は役場の課長職を基準に算定し、理事会で承認を得ました。

問 公募要項の任用期間は平成22年5月31日ですが、増額の実施時期は。

村長 任用期限は年度中途なので、慣例により4月より適用しています。

問 ションキキャンペーンについて住民への周知と協力は。

村長 10月〜12月のキャンペーンで、大系線のハイブリット列車「リゾートビューふるさと」の運行に伴い、観光商品や情報をJRと県に提供し、パンフレットやウェブサイトで情報発信します。発着時のお出迎えやお見送り等、おもてなしも関係者と調整中です。

問 局の場所の変更計画は。

村長 お客様や会員が気軽に立ち寄れる雰囲気とビジターセンターの機能を備

えた建物を見つけたので、すぐにも移りたいが、現在の借地契約が平成25年までであり、今の施設の後利用を優先的に考えています。

問 第4次総合計画の、長期滞在型観光のシニア層への取り組み状況は。

村長 広域連携を含めた施策を掲げ、「ふおーゆー白馬」や大阪に拠点を置くNPO法人による白馬自然塾の年3回の開校や、県内外への広域観光化を進めています。

【地域高規格道路について】

問 実行委員会からの要望書を受け、行政の取り組み及び進捗状況は。

村長 「ルートは、できる限り姫川以東が望ましい」と委員会案の要望を受け、慎重に検討し、県への提案準備を進めています。小谷道路は平成24年度から、翌25年度は豊科ICに着手したいと聞いています。

※信州デスティネーションキャンペーン：JR東日本宣伝企画